



学校は何のためにあるのか

皆さんが毎日通う学校は、何のためにあるのでしょうか。「そんなの簡単。勉強するためでしょ」という人もいると思いますが、最近は「eラーニング」（主にインターネットに接続したPCやモバイルデバイスなどを使って、学習者が主体的に学ぶ学習形態）という便利なものがあるので、あえて学校に行かなくても勉強はできます。今号では、少し大きなテーマになりますが、学校の役割や学校に通うメリットなどについて探してみたいと思います。

■教育基本法によると…

教育基本法という法律があります。これは、日本の教育に関する基本方針や教育制度に関する基本事項を定めた法律ですが、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」（第1条）、「教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない。」（第6条2項）とあります。そうした教育を行うための場として学校がある、と言えそうです。（※下線は校長による。）

■学校の存在意義

学校の存在意義については、様々な考え方がありますので、いくつか紹介したいと思います。

①車重徳氏（発達障害ラボ代表、心理士）（※1）

心理士として長年、発達障害などがある子どもたちのサポートをしてきた車氏は、学校の役割として、「新しい知識を入れる場所」「集団行動を学ぶ場所」「コミュニケーションを学ぶ場所」の3つを挙げています。ただし、どれも別の方法で代替可能であると述べています。新しい知識は、どこからでも得ることができ、集団行動は学校以外のコミュニティに属せば学ぶことができ、コミュニケーション能力を伸ばすトレーニングが学校以外にも存在するから、というのがその理由です。よって、どうしても学校に行きたくないのであれば、他のもので代替すればよい、というのが氏の考えです。

②苦野一徳氏（熊本大学准教授）（※2, 3）

哲学者・教育学者である苦野一徳氏によると、学校は、すべての子どもたちが「自由」に生きられるための力を育むために存在しているとのことです。ということがというと、皆が「自分は自由だ、何をやるのも勝手だ」と言っていたら他者の自由とぶつかることになり、結局はお互いの自由を奪い合うことになってしまいます。自らが「自由」に生きられるためには、他者の「自由」もまた認める必要があり、氏はこれを「自由の相互承認」と呼び、その感度を育むために学校がある、と主張しています。そして、学校で「対話による合意形成」を図る経験を多く積むことが非常に大切である、と述べています。近年、多様化を重視する風潮がありますが、実際、様々な価値観をもつ人々が存在するなか、誰もが不利益を被らず、皆が自由になるために対話を続け、合意形成を図ろうとする姿勢こそが我々にとって必要であり、「誰一人取り残さない社会」をつくることにつながります。そうした姿勢を身につけるためには、学校という大きな集団の中で訓練するのが一番だという氏の主張はもっともだと思います。生徒や先生方が対話を重ねて一緒に学校をよくしていく機会が多くあればよいですね。



③ひろゆき 氏（実業家、YouTuber）（※4）

若者に人気のひろゆき（西村博之）氏は、独自の視点から自由な意見を発信していることで知られていますが、日本の学校はデメリットだらけと言いながら、1つだけメリットがある、と述べています。それは、「他人を変えることを諦め、自分を変える練習ができる」ということです。

（2021.8.30 DIAMOND online より）

集団行動は、いろいろと揶揄されることが多いですが、人の目を気にしたり雰囲気に合わせて発言することを学ばせてくれます。いわゆる「コミュ力」です。「これを言ったらみんなが笑う」「これを言ったらみんなが引く」という細かなニュアンスを学んだりできます。

そして何より、「他人は変えられないんだ」という、社会では当たり前のことを教えてくれます。

学校生活では、理不尽なことがたくさんあります。多数決で決めたり、先生の言う通りになったり、嫌いな友達が先生に好かれていたり、さまざまなことを目の当たりにします。最初はそういうことでイライラしていたものが、次第に、「自分の考え方を変えればいいのか」「自分が好かれるようにすればいいのか」と、試行錯誤するようになります。

これが、人間的な成長だと思いますし、社会人として働き始めてから学ぶのでは少し遅すぎるのではないかと思うのです。もちろん、会社に入ってから学んでもいいのですが、人間関係で衝突するリスクは早めに回避したほうがいいでしょうからね。（※下線部は校長による）

もちろん他人を変えるくらい説得力のある主張ができればいいのですが、実際にはうまくいかないこともありますので、そうであれば自分から歩み寄る姿勢をもつということも時には必要です。前述の苦野氏が、学校で「対話による合意形成」を図る経験を多く積むことに触れていますが、合意形成を図るには譲歩も必要です。相手の意見に耳を傾けながら、どうしたらよりよい結果につながるのかを話し合う経験は、集団生活の中でのみ得られるものです。「校長室だより第9号（正解のない問いに挑む）」で述べた「納得解（最適解）」、つまり答えが1つでなかったり、そもそも答えがなかったりするような問題に対し、自分自身が納得し、この問題に関わる周りの人々が誰しも納得できるような答えを対話によって導き出す力が皆さんに求められています。

④ChatGPT（生成AI）

ついでに、今話題の [ChatGPT](#) に「日本における学校の存在意義とは何か」と聞いてみました。すると、次のような答えが返ってきました。

日本の学校は、知識の習得だけでなく、社会性や価値観を形成する重要な場である。学校では、共同体の一員としての責任や協力、コミュニケーション能力が育まれる。また、文化や伝統を尊重し、未来のリーダーを育てる場でもある。学校は、個々の成長だけでなく、社会全体の発展にも不可欠な存在である。

「コミュニケーション能力が育まれる」と言っていますが、この点は①～③の主張と共通しています。厳密に言うと、対面によるコミュニケーションですね。

いろいろ書きましたが、人によって学校に来る理由や求めるものは様々ですし、それでよいと思っています。学校は、それだけ多くの役割を果たしている場所と言えます。

【参考 Web サイト】

- ※1 学校の役割は知識力・集団行動力・コミュニケーション力を鍛えること（ソクラテスのたまご）
<https://soctama.jp/kaigishitsu/61535>
- ※2 「学校は何のためにあるのか？」（視点・論点）（NHK 解説委員室）
<https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/431662.html>
- ※3 学校教育の使命と方向性～哲学の視点から～【後編】（Benesse VIEW next ONLINE）
<https://view-next.benesse.jp/opinion/page/苦野一徳（とまの・いっとく）/article18273/>
- ※4 ひろゆきが語る「日本の学校生活で得られる一番いいもの」ベスト1（DIAMOND online）
<https://diamond.jp/articles/-/280046>



◇最近の行事より

3年農業環境科 なんと未来ミーティング (2/20)



南砺市主催で開催されました。講師は人づくり・学び舎の浦井啓子さん。自分の今後について深く考える機会となりました。

3年農業環境科 アグリマイスター認定報告会 (2/29)



全国農業高校長協会の顕彰制度であるアグリマイスターの認定報告会がありました。とやま高校生マイスターに認定された人もいました。

卒業証書授与式 (3/1)



厳粛に挙行されました。門送りの時には降っていた雨も上がり、青空のもと、卒業生は元気に巣立っていきました。

2年国際科 海外研修旅行 (3/2～10)



オーストラリアへの研修旅行はバックリー・パーク・カレッジでの研修やホームステイ、メルボルン大学訪問など充実したものでした。

1年普通科・国際科 地域課題学習発表会 (3/11)



各分野の代表チームが8分程度で自分たちの研究内容をプレゼンし、最優秀賞、優秀賞が決定しました。

2年福祉科 特別授業 (3/13)



「こころとからだの理解」の特別授業。講師は社会福祉法人小杉福祉会特別養護老人ホーム大江苑施設長の松浦佳紀さんでした。

南砺福野高校「校長室だより」ご質問・ご意見投稿フォーム

下の URL をクリックするか、右の QR コードをスマホ等で読み取ってください。

<https://forms.gle/VNcvKUZbYPWsj8nj7>

